

事業名：国際交流情報提供事業

秘書課 秘書係

政策	06 市民協働によるまちづくり								
施策	03 国内・国際交流の推進								
基本事業	02 在住外国人への情報提供の充実								
開始年度	平成10年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	対象	会計区分	一般会計	補助金	

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・市民
- ・市内通勤、通学者

手段（事務事業の内容、やり方）

日本語に堪能で地域の国際化事業に理解と意欲のある外国人を市国際交流員（C I R）として継続的に雇用し以下の事業を実施する。

- (1) 文書、刊行物等の翻訳、監修
- (2) 国際交流事業の企画、立案、実施協力
- (3) 地域住民・市職員に対する語学指導への協力
- (4) 地域住民の異文化理解交流活動への協力
- (5) 海外との連絡・調整、通訳、訪問客の接遇
- (6) 在住外国人へのサポート

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

1. 地域住民等に国際感覚や国際意識を持ってもらう。
2. 地域住民等に異文化に対する理解を深めてもらう。
3. 在住外国人にも住みやすい街にする。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標 1	市民	人	121,705	121,385	120,802	120,802
対象指標 2						
活動指標 1	国際交流員が係った地域国際化のための講座・イベント等開催回数	回	77	73	70	70
活動指標 2	海外と江別市とで交わした行政文書等の数	通	403	333	478	300
成果指標 1	国際交流員が係った地域国際化のための講座・イベント等の参加者数	人	885	895	919	1,000
成果指標 2						
事業費 (A)		千円	4,836	4,831	4,822	4,841
正職員人件費 (B)		千円	1,204	1,202	1,172	1,174
総事業費 (A + B)		千円	6,040	6,033	5,994	6,015

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講演（出前講座・語学講座） ・刊行物等の翻訳 ・市ホームページの作成 ・国際交流事業の協力助言 ・姉妹都市間の文書作成、連絡調整 ・在住外国人への情報提供 外 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流員報酬：4,800千円 ・国際交流員費用弁償（旅費）：21千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
<p>社会のグローバル化の中で、市民や将来を担う子供達にとって国際理解を深めコミュニケーションスキルを向上させて行く必要があるとともに、諸外国の情報を得ることは重要となっている。</p>	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

<p>妥当である</p> <p>妥当性が低い</p>	<p>理由 根拠</p> 	<p>地域社会の国際化を先導・推進して行くことは行政の役割と考える。地域の国際化や国際理解が進むことにより、外国人にとっても住みやすい街となり、地域社会の質の向上につながる。</p>
----------------------------	--	---

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

<p>貢献度大きい</p> <p>貢献度ふつう</p> <p>貢献度小さい</p> <p>基礎的事務事業</p>	<p>理由 根拠</p> 	<p>地域の国際化や地域住民の国際理解・交流を進める上で、機動性が高く様々な業務に柔軟に対応できる国際交流員が果たす役割は大変大きい。</p>
--	--	---

(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

<p>上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がらない</p>	<p>理由 根拠</p> 	<p>外国人向けの生活情報パンフレットやホームページの作成などにより外国人への情報提供の充実を図っているほか、中高生の相互訪問時には姉妹都市との連絡などきめ細かく対応している。また、現国際交流員は小学校での英語教育の支援や国際センターでのイベントのほか、自治会など各種団体からの依頼を受け出前講座を開催するなど、語学指導や国際理解教育の面でも評価が高い。</p>
--	--	---

(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？

<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p> <p>成果向上余地 小・なし</p>	<p>理由 根拠</p> 	<p>現在の国際交流員の活動は地域社会に受け入れられ、一定の成果を出している。引き続き、地域住民が国際交流員と接する機会を増やすことで、市民が外国文化や外国人と積極的にコミュニケーションを図ることが出来る能力を身につけることが期待できる。</p>
--	--	---

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？

<p>ある</p> <p>なし</p>	<p>理由 根拠</p> 	<p>国際交流員の報酬については、一定レベルの生活保障が不可欠となっている。さらに、その他経費においても実質弁償として必要最小限の支出を常に心がけ、コスト削減に努めている。</p>
---------------------	--	--